



KUMAMOTO GREEN Rotary-Club bulletin



2014-
2015年度
テーマ

- 国際ロータリー 「ロータリーに輝きを」 R.I.会長 ゲイリー C.K. ホアン
- 地区方針 「ロータリーを学び直し 新たな第一歩を踏みだそう」 R.I.2720地区 ガバナー 小山 康直
- 熊本グリーンR.C. 「ロータリーを知ろう」 熊本グリーンR.C.会長 田中 純司

■例会日：毎週月曜日 18:30～19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

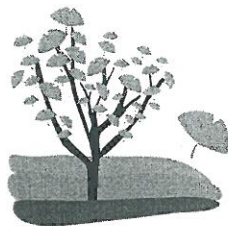
■創立：平成元年2月22日 ■会長：田中 純司 ■幹事：蒼 孝之 ■会報担当：長野 義文
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgro@io.ocn.ne.jp

国際ロータリー 第2720地区 熊本グリーンロータリークラブ週報

【2014年11月17日】

第1152回
2014-2015年度 第15回
【例会】

1. 開会・点鐘 18:30
2. 食事と交歓



「友と語ろう」 (熊本グリーンRCの歌)

来訪者紹介 (田中 純司 会長)

卓話者 木村 初 氏 (熊本西南RC)
例会見学者 吉野 恵子 氏

友情の握手

会長スピーチ (田中 純司 会長)

今月は、ロータリー財団月間で財団の話しをと考えていましたが、地区ロータリー財団の部門長をお迎えし「ロータリー財団の基礎知識」という卓話をお願いしております、11月5日を含む1週間が「世界インターアクト週間」ですので、今日は、インターアクトのお話をさせていただきます。

インターアクト(Interact)
インターアクトは、学校や地域社会での課題に取り組むために結束する12～18歳の青少年のためのクラブである。インターアクターは、インターアクトクラブで奉仕活動を行い、リーダーシップのスキルを身につけ、新しい友人をつくる。インターア

インターアクトクラブは、提唱ロータリークラブとともに、毎年、少なくとも2つの奉仕プロジェクト(1つは地域社会を支援するプロジェクト、もう1つは国際理解を推進するプロジェクト)を実施する(ロータリー章典41,010)。

インターアクトクラブは、所在する地区内にある一つまたは複数のロータリークラブにより、結成、提唱、指導監督される。少なくとも一つのロータリークラブが、提唱クラブの役割を務めなければならない。すべてのインターアクトクラブは、国際ロータリーによる認定を受けなければならない。提唱ロータリークラブは、毎年、そのインターアクトクラブに関する最新情報(クラブ会長、ロータリアン顧問あるいは顧問教諭に関する情報を含む)を提供しなければならない。インターアクトクラブは、学校を基盤とすることも、地域社会を基盤とすることもできる。(ロータリー章典41,010)。

また、世界で最初のインターアクトクラブは1962-1963年にアメリカフロリダ州メルボルンで発足しています。

幹事報告 (山下 佳介 元会長)

■ 例会取止め・変更

<例会変更>

★熊本南RC

12月1日(月)の例会は、年忘れ例会のため、同日18:30より、ホテル日航熊本にて行います。

卓話
予定

- 12/1 「からし運根は私の人生」森 裕子 氏(有)森からし運根 社長(熊本水前寺公園RC)
- 12/8 仙波洋八 会員卓話
- 12/15 「税務調査への心構え」アステア税理士法人 代表社員 千田 基史 氏
★年次総会(例会前半に開催)
- 12/22 「年忘れ家族会」(於:キャッスル 地階)
- 12/29 例会取止め(定款第6条第1節に基づき)

【熊本グリーンR.C.ホームページアドレス】 <http://www.kg-rc.com/>

グリーン・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及ばません。というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

★熊本菊南RC

①1月5日(月)の例会は、新春合同例会のため、1月6日(火)12:30より、ホテルキャッスルにて行います。

②12月24日(水)の例会は、年忘れ家族会のため、同日18:30より石松茶屋にて行います。

★熊本西稜RC

12月8日(月)の例会は、クリスマス家族会のため、12月10日(水)18:30より、ホテル日航にて行います。

★熊本水前寺公園RC

①12月17日(水)の例会は、クリスマス例会のため、同日18:30より、メルパルク熊本にて行います。

②12月24日(水)の例会は、夜例会を昼に行うため、同日12:30よりメルパルク熊本にて行います。

<例会取止め>

[熊本南RC] 12月22日(月)

[熊本南RC] 12月29日(月)

*但し、サインMU受付は致しません。

[熊本西稜RC] 12月29日(月)

*但し、サインMU受付は致しません。

[熊本水前寺公園RC] 12月31日(水)

*但し、サインMU受付は致しません。

出席報告 (葉 高源 会員)

	会員総数	24名	出席率
11月17日	出席免除会員数	2名	40.91%
	計算上会員数	22名	
	出席会員数	22名	
11月3日	前回の出席会員数		休会
	メイクアップ数		
	修正出席会員数		

委員会報告

①「ロータリーの友11月号」内容紹介

報告者:江上 泰弘クラブ広報副委員長

スマイル (大友 利行 会員)

●木村 初 君(熊本西南RC)

「今晚は卓話に参りました。ヘタな卓話です。しばらくお耳をお貸し下さい。」

●田中 純司 君

「地区財団部門長、木村初様、本日の卓話「ロータリー財団の基礎知識」よろしくお願ひします。歓迎のスマイルです。」

●仙波 洋八 君

「木村地区財団委員長の御来訪と卓話に感謝してスマイルします。ロータリー財団の利用活用は難しいとの印象がついて廻りますが、木村委員長は大変やさしく相談に乗ってくれる人として有名な方です。本日は勉強させて頂きます。」

●荒木 一之 君

「ロータリー財団部門長の木村初様の来訪を歓迎してスマイルします。」

●松村 秀逸 君、葉 高源 君、十時義七郎 君

「木村地区財団委員長の御来訪と卓話に感謝してスマイル致します。」

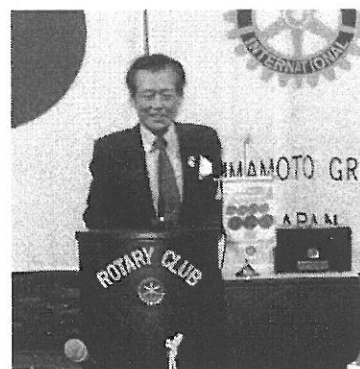
3. 例会プログラム

紹介者:仙波 洋八 会員

卓話者

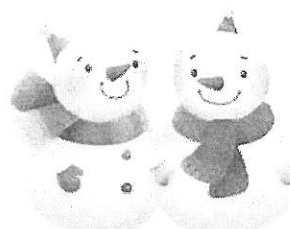
地区ロータリー財団委員会部門長

木村 初 氏(熊本西南RC)



演題

「ロータリー財団の基礎知識」



ROTARY LEADER

ロータリーリーダー

私たちの財団

国境を越えた協力

2つのクラブが実現させたメキシコでの 女性支援プロジェクト

都市部から離れたメキシコの町アジジクで、子宮頸がんと乳がんから女性の命を守るため、メキシコと米国カリフォルニア州リンカーンのロータリー会員が検査機器の寄贈プロジェクトを行いました。

2012年、このプロジェクトに大きな転機が訪れます。定年後にアジジクで暮らしていたリンカーン・ロータリークラブ(米国カリフォルニア州)の元会員が、この活動について知り、リンカーンの旧友に連絡したことがきっかけとなり、4,000ドルが寄付されたのです。

今から4年前、アジジクのロータリー会員ムンイーン・キングさんは、地元支援センターを設立し、貧困家庭を支える奉仕プロジェクトを開始。寄せられた寄付や補助金を最大限に活用するため、クラブは予算を組み、手続きを行うための仕組みを整えました。また、請求書の確認や支払いの承認といったプロジェクト管理は、会員が分担して行いました。

さらに、2クラブは協力して16,000ドルの補助金をロータリーに申請。これによって支援センターは活動規模を拡大し、小児ケア、母親への研修、セラピーも実施できるようになりました。

アジジクの会員は、この活動が財団補助金の指針を守っていることを確認し、活動状況を常にカリフォルニアのクラブに連絡しています。

ロータリーでは、国境を越えたクラブ間の協力が可能となります。キングさんは、次の目標として、グローバル補助金で移動式クリニックを実施することを検討しています。「グローバル補助金があれば、支援センターの複数のプログラムを軌道に乗せ、今後もずっと継続していけるでしょう」

リンカーン・ロータリークラブのポール・ラドクリフさんは、次のように述べます。「こういう協力関係があれば、どこの地域社会でも女性の支援ができることを学びました。これからも、力を合わせて多くのプロジェクトに取り組んでいきたいです」

11月のロータリー財団月間には、クラブを通じて実現された補助金プロジェクトをご紹介ください。上記プロジェクトのような素晴らしいストーリーをお待ちしています。

貧困、非識字、栄養失調などの問題に持続可能な解決をもたらす財団プログラムは、皆さまからのご寄付によって可能となります。2014-15年度の年次基金への寄付目標額は、1億2,300万ドルです。引き続き、年次基金を通じたご支援をお願いいたします。そのほかの支援方法については、ロータリー財団参照ガイドをご参照ください。



支援センターで健康診断や治療を受けるために順番を待つ家族



地区のコーナー

一生に一度の経験を若者たちに

地区補助金を利用してロータリー青少年プログラムを支援

ロータリー青少年交換留学生がオーストラリアの大自然を体験する「サファリツアー」。毎年恒例のこのツアーに参加中の高校生16人が休憩のためにある小さな町に寄ったとき、一行はこの町に住むコートニーさんと出会いました。

この偶然の出会いが、コートニーさんの人生を変えることに。田舎生活で孤立感を覚え、同年代の若者とのおしゃべりに飢えていたコートニーさんは、すぐに留学生たちと打ち解けました。翌年には、サファリツアーに参加した新たな留学生たちが、彼女の元を訪れました。

ロータリー青少年交換の費用は、通常、ロータリークラブの支援に加えて留学生自身が負担します。しかし、コートニーさんの両親は、彼女を海外に送り出すための経済的余裕がありませんでした。これを知ったサファリツアーのリーダーと第9550地区のクラブは、コートニーさんへの支援を決定。

その結果、彼女は青少年交換学生としてブラジルに1年間留学できました。RI理事会の最近の決定により、地区は、ロータリー青少年交換、ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)、ローターアクト、インターアクトなどの青少年プログラムへの参加に地区補助金を利用できるようになりました。これにより、コートニーさんのような若者に人生を変えるような経験を提供できるチャンスが広がります。

補助金で支援できる対象は、若者主導の奉仕プロジェクト、青少年交換や新世代交換への参加、RYLA参加者への交通費、国際大会前に開催されるローターアクト会議に出席するローターアクトの渡航費など、さまざまです。

「ロータリアンとクラブからの温かいご支援のおかげで、思いもよらなかったチャンスと経験、そして友人たちとの出会いをコートニーさんにプレゼントできた」と話すのは、サファリツアーのリーダー、ジェフ・アシャーさんです。「これからはもっと多くのクラブが、恵まれない若者たちに人生の転機となるチャンスを提供できるでしょう」

第4760地区(ブラジル)のロータリー青少年交換名誉委員長、イヴァン・ヴィアナさんも、青少年交換を通じて貴重な体験をした一人です。1968年に米国ペンシルバニア州に留学したヴィアナさんは、「青少年交換はロータリーで一番人気のあるプログラムですが、子どもを留学させる経済的余裕のない家族もいる」と話します。

彼の地区では、ほかの地区と合同で、低所得家庭の高校生に青少年交換への参加費用を全額支援するプログラムを始めました。「この支援によって若者たちの未来が明るくなった」と語るヴィアナさん。「それだけでなく、青少年プログラムの学友たちは、将来、ロータリー会員としてふさわしい人材に育っていくでしょう」

地区の資金を活用してロータリーの青少年プログラムを支援できることを、ぜひ地区リーダーにアピールしてください。



オーストラリアの大自然を体験する「サファリツアー」に参加した青少年交換留学生たちとコートニーさん(写真手前)。